

令和5年度 第1回 松本「シンカ」推進会議 会議録

日時：令和5年7月3日（月）  
午後1時30分～2時50分  
場所：第一応接室 + オンライン

欠席委員：山村委員、林委員、三村委員、百瀬委員、赤沼委員、鬼頭委員

1 開会

2 座長あいさつ

3 新任委員の紹介

4 事務局員の紹介

5 議題

(1) 地方創生の取組みについて

【質問・意見等】

- 資料中の人口は国籍を問わないということで良いか。また人数の基準は12月末ということで良いか。
  - ➡ 国籍を問わない数字である。数字については令和4年12月末のもの。
- 社会増742名のうち、161名は外国籍の方と思われる。この数字には帰化した方や父母が外国籍の方は含まれないため、外国ルーツということではさらに多いのではないかと思われる。
- 161名増というのは、長野県内では特徴的な数字と言えるのか。
  - ➡ 上田、諏訪の方が多い。人口比率で言えば全国平均を下回っている。

(事務局)

市としても人口定常化という面では、増減の数にこだわるより質の部分が重要と考えている。今後、数字の分析を十分に行い、会議の中でも共有したい。

- 観光の分野は世の中の影響を受けやすい部分がある。松本の豊富な観光資源の良さをじわじわ上げていけるよう、観光のあるべき姿を捉えた上で長期的に取り組んでいくためのDMCのような組織体をつくっていく必要があるのではないか。

- 観光客は確実に戻ってきているが、テレワークやコワーキングなどについては事業者任せになってしまっている感じがある。上高地界限で言えば、高山市側は道路事情も良く、平湯辺りはきれいに整備されていて外国人観光客の利用も多い一方、沢渡の方はその辺が不足している。
- 公設民営バスは全国的に珍しい取組み。今後どう伸ばしていけるかは市民の意識が重要。  
バス業界においても、いわゆる2024年問題は深刻。物流同様、乗務員不足をどう解消するかという課題については、外国人労働者が鍵を握ると考えている。外国人が働ける環境整備が重要である。

(2) 自然×シンカの取組みについて（今後の進め方、議論のテーマについて）

【質問・意見等】

- 会議の進め方としては、分科会形式の方が良い。テーマに関しては、現状ではやや幅が広いので、もう少し絞ってもいい。
- 若者をワーキンググループに加えてはどうか。
- 身近な自然への入り口である、まちなかの公園の見直しが必要。
- 市街地をどうしていくかという点では、人がどう住んでいくかが中長期的には大きな問題と考える。
- 中心市街地だけでなく、自分が住んでいる地区の周りの自然に対する意識を変えていく必要がある。
- 「暮らし」を再定義・リデザインする必要がある。
- 最近は保育や幼児教育の現場でも「暮らし」がクローズアップされている。「遊ぶ」「食べる」「寝る」という生活者としての「暮らし」を真ん中に置く考え方
- 生活そのものが「アート」という暮らし方が、松本で実現できるという情報も最近出回っている。観光はそこに乗っかってくる。地域が良くなると人は寄ってくる。

6 閉会

※今後の具体的な進め方は座長及び事務局で整理の上、別途委員に連絡する。